

平成28年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校訓	「誠の心にしたい信念を貫く」		重点目標	(1) 学力の充実を図る。 自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化により学力の充実を図る。 自学自習を基本とする教材を活用しての学力向上と、各種検定に挑戦して資格取得を目指す。 (2) 日々の生活の充実を図る。 自己を大切に、他人への思いやりをもつ。 自ら考え、正しく判断し、よりよく表現や行動ができる。 (3) 社会に貢献する態度と能力を育てる。 社会人となるにふさわしい人格を育てる。 目標を持って、自らの未来を切り開いていく。	学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 馬場 克治	
	校訓の「誠の心にしたい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。				(評価) B	
学校教育目標	未来を広げる高い学力・・・教科学習の充実及び補助教材を活用しての学力向上。 意欲に満ちた輝く生徒・・・自ら学び、思考力、判断力、表現力を高める。				(評価文) 生徒・教職員共に厳しい目で学校評価を行っていることは好ましいことである。評価と指導、評価と改善を一体化し、次年度に向けて実効性のある取り組みを行うべきである。	
重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては（小テスト等）適切であったか。	B	授業の開始時に前回の復習を取り入れることで理解度を高めることができた。また、課題を通して家庭学習の習慣化に努めた。しかし、全ての生徒が自主的に行っている状態ではないため、学習意欲を高める工夫が今後必要である。	B	各定期試験前に家庭学習を充実させるため、多くの教科で生徒に課題を与えている。しかし、生徒は課題をこなすことで手一杯になってしまうことがある。課題の量や質が適当かどうか精査する必要がある。
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	B	説明だけで終わらせず、実践させることで学習内容を定着させることができた。その結果、各定期試験において高い平均点を維持することができた。このことから、「わかりやすい」授業に関しては概ね達成できたと思うが、「魅力ある」授業に関しては全授業で達成できたとは必ずしも言えないので、今後も更なる教材研究が必要である。	B	生徒たちはただ傍観しているのではなく、音読や演習問題に取り組み、授業に参加することで理解度を高めていた。しかし、ある程度授業形式が定着すると、マンネリ化し、集中を欠く傾向にある。手法を変えながら「魅力ある授業」を実践して欲しい。
	③補助教材として国・数・英基礎演習(JEMエクササイズ)を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。毎月クラス編成替えを行い、進度の速い生徒を賞揚するなど生徒にやる気を出させる。	国・数・英基礎演習(JEMエクササイズ)に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	B	数学ではつまずく生徒が多く見られた。自学自習による学力の向上を目指すには、今後、補助教材やテストプリントの改善が必要だと感じた。	B	各検定の上級取得者は増加しているが、生徒全体の基礎学力の向上や、資格取得への意欲につながっているかは、明確ではない。それを明確にするため、到達テストの実施など、検定試験以外の指標を設定する必要がある。
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って選択教科の学習に取り組みせ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	漢字検定・英語検定において上級を取得する生徒が増したが、意欲には個人差があった。作業的に取り組んでいる生徒に目標を持って学習に参加させる工夫がもっと必要である。	B	単に資格を取得するためではなく、なぜ資格が必要なのか、何のために学習をするのかといった目標の設定が不透明であった。学習に取り組む前の段階の指導を充実して欲しい。

重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力を図る	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	B	中学生を対象とした体験学習の模擬授業へ向け教科で協力して授業づくりを行ったことは良い研修となった。しかし、学校全体での研修は不十分であった。	B	教科間の会議は適切に行われていた。また、新人からベテランの教員まで、互いの指導法を確認し合い、見直しをするなど、連携がしっかりととられていた。しかし、教科の垣根を越えた取り組みは見られなかった。
2. 日々の生活の充実を図る	①自己を大切にし、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	A	生徒の話に耳を傾けることを心がけ、気持ちや考えを引き出すことができた。また、一人一役などクラスでの役割を与えることで責任感を育むといった心の教育ができた。しかし、専門的な知識を身に付け、悩みを抱える生徒に適切に対応するため、教員がカウンセリングの指導を受けるなどの研修が必要であると感じた。	A	友人関係の悩みなど、生徒が相談しやすいような環境を整えていた。また、相談に対して誠意を持って対応していた。そのため、生徒と教員が良い信頼関係を保って生活できていた。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	A	良い部分は褒め、改めるべき部分は厳しく指導した。また、指導後は生徒が前向きな気持ちになれるよう、アフターケアを徹底した。	A	頭ごなしに指導するのではなく、指導をなぜ受けたのかを生徒にしっかりと聞き聞かせ、理解させていた。生徒も同じ失敗をしないようにと、指導を前向きに捉えていた。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳粛なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	B	その場での指導を心がけて適切に対応した。遅刻・欠席や頭髪の指導に関しては、家庭との連携が不可欠だが、家庭との意識のすり合わせが困難なことがあった。生徒と家庭が納得できるよう、改善の必要性を明確にした指導を行いたい。	A	生徒会活動の一環として、毎朝挨拶運動や風紀向上の運動を生徒主体で熱心に行っていた。教員は生徒会の諸活動に対し、適切に支援していた。
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	B	ボランティア清掃を通して社会貢献の気持ちを育むことができた。しかし、授業からのアプローチが不十分だったので、今後は、授業内容に即したテーマで、社会奉仕の心を育む指導を取り入れていきたい。	A	途中で集中を切らすことなく、最初から最後まで丁寧に除草作業を行った。任された箇所をただ清掃するのではなく、景観に配慮するなど、皆が気持ちよく過ごせるようにと社会奉仕の意識を持って作業に取り組んでいた。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	B	報告・連絡・相談に努め、全校体制での指導ができた。また、小さなことでも気づいたときには保護者連絡を確実に行った。今後は、より同一歩調を意識して指導に当たりたい。	A	密に家庭連絡を行い、生徒の変化やその指導の経過を確実に伝え、共有できていた。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	C	生徒自身による健康管理の徹底の指導と共に、体調不良の生徒への対応をしっかりと行うなど、感染症の二次感染を防ぐために気を配ったが、例年よりもインフルエンザが流行してしまった。予防についての声かけを増やすように努めた。	B	部活動を一定期間停止し、インフルエンザの流行予防に努めていた。今後は家庭にも注意を喚起するなど、流行状況の情報を家庭と共有し、連携して予防するなどの方策をとるようにして欲しい。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	SPIや面接指導など、一般的な教養を高める指導に関しては徹底できた。しかし、専門的な技能の習得に関する指導は不十分だった。	A	履歴書指導、面接指導が適切に行われていた。また、理系の大学や専門学校を希望する生徒に対して特別授業を行うなどの手厚い指導が見られた。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	A	それぞれの進路決定の手助けとなるような情報は提供できた。また、将来どのようになりたいかなど、ライフプランを見据えた進路指導をすることで、生き方についての指導も概ね達成できた。	A	早い段階から進路希望調査を行い、それに沿って指定校推薦・指定求人などの情報提供を行っていた。そのため、生徒は評定を高めるなどの具体的な目標を持って学習に取り組めた。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	B	進学希望者への指導は概ね達成できたが、より大きな成果を得るために、今後は個々への学習支援に際して、苦手分野を明確にする作業からそれを克服する作業までをより手厚く行う必要がある。	B	3年生だけでなく、1・2年生に対しても放課後や長期休暇中に学習支援を熱心に行い、ニーズに合った指導がなされていた。今後は大学への進学者をさらに増やして欲しい。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	企業訪問を適切に行い、例年と同様の大きな成果は得られたが、今後は、企業が求める人材をしっかりと把握・育成し、実績につなげる努力が必要である。	B	三者面談を通して就職希望者に対して情報提供を行っていた。また、キャリアアップセミナーへの参加を呼びかけ、多くの生徒を参加させることで就職内定率を高めていた。今後、インターンシップの効果について検討してみることも必要である。